

3/28 (月) まいど倫理号です。今日には申し訳ありません。
 「自然資本」とは改めてお話しを。その目に見えない不慮で
 人間生活と地球環境に。感謝です。
 草子道子アホ一鳥

2022. 3. 26~4. 1

今週の
倫理

3月のテーマ | 地球倫理

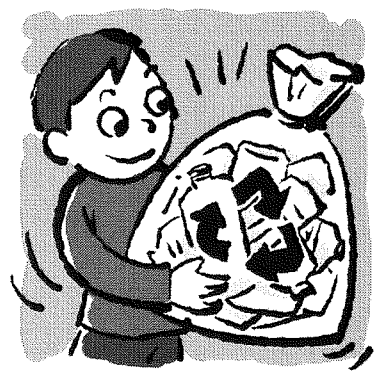
1274号

自社製品の製造に必要な原料、自動車を動かす燃料や電力、人が一日働くために必要な食事に至るまで、私たちの仕事は、その大本を自然の恵みに寄っていることは言うまでもありません。

これらの原料や燃料、食事等については対価を支払わなければなりません。そうではないものもあります。例えば、太陽の光や熱、空気がそれです。日を浴びても太陽にお金を払うことはありませんし、呼吸をするために借金することもありません。

このように、私たちが携わる仕事は、あらゆる意味で、いわゆる「自然資本」を行なわれていきます。仕事のみならず、広く、人間の活動は、大なり小なり、多かれ少なかれ、地球のある部分を壊し、利用しなければ成り立たないといっても過言ではありません。人はそうしていかなくては生きてはゆけない存在であり、企業活動もまた、本来の意味で永続的な活動と繁栄を求めるならば、「自然資本」の保全に注力すべきであると言えます。しかし、この地球環境の保全の努力と共に重要なことが、「補償」の意識とその取り組みに他なりません。……地球自然の破壊に対するその補償こそ、地球人の地球に対する倫理の実践として、毎日のように意識され、自覚されなければなりません。

- 一、地球の恵みに対するその恩返し
 - 二、地球を破壊したその罪ほろぼし
- 少なくともこの二つを、具体的に毎日われわれ人間は実践しなければならない。



より良き環境を残すために
「本物の倫理経営」 を実践する

* 出典…丸山竹秋『新経営倫理学』二十九頁
 補償とは、補い償うこと、償って埋め合わせることを意味します。償うとは、金品を出して、負債や相手に与えた損失の補いをする事、弁償することです。しかし、先述したように、地球や太陽という対象に金品を支払うことはできません。自然に対する補償は、できる限り自然をもとのように戻すことにあります。

環境破壊の阻止と保全に加えた補償の実現には、困難が伴います。また、個人、一企業の力も微々たるものかもしれません。しかしながら、木材を扱う企業が植林をし、食品に携わる企業が食材の保全に関する活動を行なっている事例もあります。

このような取り組みを推進する鍵、原動力は「自然資本」を残してくれた先人（過去世代）に対する感謝の思いを深めることにあるでしょう。恩の気持ちに深まる程に、子孫（未来世代）へ、より良き環境を残そうとする思いは強くなり、今に生きる私たち（現在世代）の正しい選択と具体的で適切な行動につながっていきます。

水を汚し、空気を濁らせたのは無節操な経営姿勢の集積の結果であった、と肝に銘じて悟るところから本物の倫理経営は始まる。* 出典…丸山竹秋「今世紀の後始末」『倫理ネットワーク』（1996年7月）
 地球は「閉鎖循環系」の星に他なりません。そのサイクルの中で、永続的で適正な富を真剣に追求しようとする「本物の倫理経営」を実践していききたいものです。